

始めよう今、みつめよう未来

今年国際青年年

未来を築く——それはいつの時代も青年の役割です。

家庭、地域社会、国際社会など青年を取り巻く「社会」はさまざまですが、青年が自らの意思、判断、活動によって積極的に社会参加を進めていくことが求められています。昭和六十年は国連の定めた国際青年年。



わが国の重点目標

- 1 青年の社会参加の促進
 - 2 青年の健康・体力の充実
 - 3 科学技術や文化の発展に対する青年の理解と浸透
 - 4 国際交流などを通じた青年の相互理解の促進
- 国際青年年への青年の主体的、積極的な参加が期待されています。

テーマは

「参加・開発・平和」

「参加」とは、青年が個人として、また社会の一員として判断・決定する機会を確保すること。

「開発」とは、青年が自らの人格的成長をはぐくみ、個人の能力を高めるとともに、地域や国の発展に貢献すること。

「平和」とは、青年が国際社会の一員として、国際交流や国際協力を通して相互理解を深め、平和に貢献すること。

641人が
大人への仲間入り!

「成人の日」の一月十五日、文化会館で第三十一回成人式が行われました。

該当者総数六百四十一人（男子三百二十人、女子三百二十人）のうち、四百三十八人が出席し、会場は華やいだ雰囲気になりました。

式典は、午前十一時より多数の来賓をむかえ、市民合唱団のコーラスで始まり、その後、各界の代表者の激励の言葉に新成人たちは「はたち」という人生の重要な節目を意識し、これからの重大な任務と責任を胸に、真剣なおももちで聞き入っていました。

東京オリンピックが開催、東海道新幹線が開通され、市内では、中央自動車道の工事が着工、都留文科大学の校舎建設着工（現在の講義棟）された高度成長期に生まれた若



者たちは、責任を新たに第一歩を踏み出しました。

スケート教室

に参加して



△旭小四年 小俣仁美さん

一月十日、市のスケート教室に参加しました。今年で十七回にもなるそうです。天気心配でしたがよい天気です。安心してハイランドに行きました。スケート場に着くとすぐに市の人の説明を聞き、体そ

うをしてスケートリンクに入りました。しばらくぶりのハイランドでは、大勢の人がすべっていました。

今年初めてのスケートだったので、すべり始めた時は何回もころびそうになったけれど、少したったらスイスイすべれるようになりました。

おかあさんたちは、見てくれるだけですべりませんでした。午後になると、つかれがでて休むのが長くなりました。レクリエーションでは、ゲームがあたりました。からだ中がつかれていただけ、終わりの放送があったときは、ちよっぴりさみしくもつといたいたいと思いました。

都留市の人たちがリンクからあがったら、ガラガラにすいてしまいました。帰りのバスでは、つかれてねむってしまった人もいました。とても楽しい一日でした。来年のスケート教室にも参加したいと思います。

